

## (5) ガーベラ

### ア 各病害虫の防除

疫病

根腐病

マメハモグリバエ

アブラムシ類

コナジラミ類

ミカンキイロアザミウマ

ハダニ類

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 疫病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 低湿地又は排水不良な土地では栽培しない。
- 2 発病ほ場から株分け苗を採らない。
- 3 発病株は早めに抜き取る。
- 4 太陽熱消毒法などで本ほを土壤消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ほの消毒の項](#)を参照)。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病がみられたら薬剤を施用(散布)する。

### 根腐病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 低湿地又は排水不良な土地では栽培しない。
- 2 発病ほ場から株分け苗を採らない。
- 3 発病株は早めに抜き取る。
- 4 太陽熱消毒法などで本ほを土壤消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ほの消毒の項](#)を参照)。
- 5 ロックウール栽培の改植時には熱水(60~65℃)で消毒する。

### マメハモグリバエ

---

・[共通防除の章のハモグリバエ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 薬剤防除のみでは防除が困難であるため、耕種的・物理的防除法も組み合わせて実施する。
- 2 成虫は黄色に強く誘引される性質があるので、黄色粘着板を用いて発生をモニタリングし、初期防除を徹底する。
- 3 成虫の侵入を防止するため、施設開口部には防虫ネットを設置する。また、紫外線カットフィルムの利用も有効である。
- 4 ほ場周辺部の雑草などにも寄生するので、特にキク科雑草を除去する等、ほ場衛生に努める。
- 5 収穫後の被害残さは発生源となるので、土中に埋設するか、ビニール被覆し熱処理を行う。
- 6 収穫終了後、地表の蛹の防除対策として、施設を密閉し土壤表面をビニール等で被覆することにより蒸し込む。水分のある植物がない状態で最低地温40℃以上が数日続けば、蛹はほぼ死滅し、羽化成虫も1日で死滅する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

### アブラムシ類

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。
- 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
- 4 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

### コナジラミ類

---

・[共通防除の章のコナジラミの防除の項](#)を参照する。

(耕種的防除・物理的防除)

- 1 特にタバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しているため、以下に挙げる予防策を基本とした総合防除を行う。
- 2 寄生範囲が広いこと、ほ場内外の雑草防除などほ場衛生に努める。
- 3 施設では成虫の侵入防止を徹底する。0.4mm 目以下の防虫ネット、紫外線カットフィルム、反射資材等の利用が有効である。
- 4 夏期には露地においても発生が多くなるため、秋期より栽培(定植)の始まる作型では、施設内への成虫の侵入防止対策が特に重要である。
- 5 育苗期の防除に努め、コナジラミ類が寄生していない苗を定植する。鉢物など、栽培に関係のない植物は、施設内に持ち込まない。
- 6 連作する場合には、作と作の間に施設内に植物が存在しない期間を設け、コナジラミ類がリレーされることを避ける。
- 7 施設での発生予防のために黄色粘着テープを使用する場合は、侵入防止を徹底したうえで、施設の出入口や側窓付近に張り、定期的に交換する。
- 8 作物上に寄生したコナジラミの施設外への逃亡・拡散を防止するため、収穫後の残さは、キルパーの処理や施設の密閉(蒸し込み)により、枯死、乾燥させた上で処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 早期発見、早期防除に重点を置く。薬剤効果に差があるので、両種の区別を的確に行う。薬剤散布を行うに当たっては、葉裏に寄生している幼虫、蛹にも必ず薬剤がかかるよう丁寧に十分な量を散布する。さらに、薬剤が株全体によく到達するように下葉の処分を早期に行うなど工夫する。
- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 キルパーを用いた前作の古株枯死 ([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照) ([農薬登録情報](#))
- 4 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

## ミカンキイロアザミウマ

---

・ [共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的防除・物理的防除)

- 1 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張する。育苗期の被覆も有効である。ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い0.4mm 以下の防虫ネットが必要である。
- 2 ほ場周辺の雑草を除去する。
- 3 粘着テープにより成虫を誘殺する。本種は特に青色に誘引される。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬
- ※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- ※アザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- 2 キルパーを用いた病害虫まん延防止 ([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照) ([農薬登録情報](#))
  - 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

## ハダニ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。